

## 製品名: ラミニン $\alpha$ -1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab13196

研究使用のみ

### 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

### 応用

希釈倍率 WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000

分子量

### 抗原情報

遺伝子名	LAMA1
別名	LAMA1; LAMA; Laminin subunit alpha-1; Laminin A chain; Laminin-1 subunit alpha; Laminin-3 subunit alpha; S-laminin subunit alpha; S-LAM alpha
遺伝子 ID	284217.0
SwissProt ID	P25391
免疫原	抗血清はヒト LAMA1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 2501-2550

### 背景

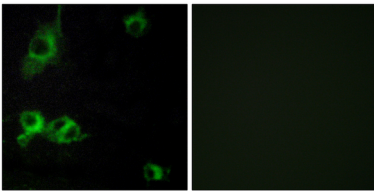
この遺伝子はラミニンの  $\alpha$ 1 サブユニットの 1 つをコードしています。ラミニンは、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$  鎖からなるヘテロ三量体構造を有する細

胞外マトリックス糖タンパク質ファミリーです。これらのタンパク質は基底膜の主要成分であり、細胞接着、分化、遊走、シグナル伝達、神経突起伸展、転移など、様々な生物学的プロセスに関与していることが示唆されています。この遺伝子の変異は、ポレットイ・ボルトハウザー症候群に関連する可能性があります。[RefSeq 提供、2014年9月]、ドメイン:ドメイン VI、IV、G は球状です。、ドメイン: $\alpha$ ヘリカルドメイン I と II は、他のラミニン鎖と相互作用してコイルドコイル構造を形成すると考えられています。、機能:ラミニンは、高親和性受容体を介して細胞に結合し、他の細胞外マトリックス成分と相互作用することで、胚発生中に細胞の接着、移動、組織への組織化を媒介すると考えられています。、類似性:ラミニン N 末端ドメインを 1 つ含みます。、類似性:ラミニン EGF 様ドメインを 17 個含みます。、類似性:ラミニン IV タイプ A ドメインを 2 つ含みます。、類似性:ラミニン G 様ドメインを 5 つ含みます。、細胞内位置:主要成分。、サブユニット:ラミニンは、3 つの異なるポリペプチド鎖 ( $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ ) からなる複雑な糖タンパク質であり、ジスルフィド結合によって、1 本の長い腕と 3 本の短い腕からなる十字型の分子を形成し、その両端には球状構造を持つ。アルファ 1 はラミニン 1 (EHS ラミニン) およびラミニン 3 (S ラミニン) のサブユニットである。

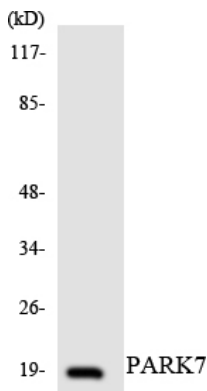
## 研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、がんにおける経路、小細胞肺がん、

## 画像データ



LAMA1 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



PARK7 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウエスタンブロット分析。